

■今年度の活動内容設定時に参考とした「他校の環境に関する取組」

・学校から保護者への発信方法を紙から ICT の活用への転換について。
昨年末から少しずつ取り入れていましたが、効果的な運用を進めていきます。

□

取組 テーマ	取組目標	具体的な活動内容		担当者	活動 主体	取り組んだこと、その実績	１年を振り返って
地域環境、 地球環境 の保全	地域環境や地球環境に関わる基礎を学習し、環境の保全についての考えや心情を育みます。	1	学校周辺の自然について、身近な動植物の存在を知る。（理科）	1 年理科教諭	1 年生	・ 1 年生は学校の敷地内の植物を調べ、観察、実験を通して、直物の生活と種類について学習し理解を深めた。 ・ 2 年生は気象現象について、それが起こるしくみについて学び、規則性の認識を深めるとともに、降水のしくみについて地球温暖化など、環境に関する考察を行った。保健体育や家庭科の分野から生活排水やごみ処理について、自分事として身近な生活の中で実践できることを考えることができた。 ・ 3 年生は S D G s について学習し、茅ヶ崎市の取り組みについて講師から説明を受け、どのように実践していけるのかをまとめ、様々なアイデアを共有することができた。	【取組の評価】□達成できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成した □達成できなかった 【理由】 教科の学びをつなぎ、自然と人間の生活の密接な関係に気づき、現在起こっていることを深く掘り下げて考えることができていた。 【今後の課題】 生徒自身が考えたことを個人、学校の取り組みとして実践していくこと。 【次年度への引継ぎ事項】 S D G s の学習を３年間通して系統的にすすめていくこと。
		2	雨が降るしくみを基に、水資源の循環について考える。（理科）	2 年理科教諭	2 年生		
		3	空気、水の保全や生活排水、ごみ処理について考える。（保健体育）	2 年保健体育教諭	2 年生		
		4	SDGs について学習し、今までの学びを生かして、個人もしくは学校で実践したいことを考える。（総合的な学習の時間）	3 年全職員	3 年生		
省エネ・省 資源の取組	エネルギー資源について学び、電気・水・物を大切にする生徒の主体性を育みます。	1	電力消費を迎えるため、照明のこまめな消灯やエアコン温度設定について呼びかける。	生徒会担当教諭 生徒会	全学年	・ 生徒会による各クラスの換気状況調べを定期的に行った。警告がなると生徒が呼びかけ、窓を開放し風の通り道を作り、意識を持って取り組むことができた。節電は積極的に進められなかった。 ・ 各教室に古紙ボックスを置き、生徒のリサイクルへの意識づけを行っている。	【取組の評価】□達成できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成した □達成できなかった 【理由】 換気については生徒自身の取り組みができた。指数が示されると、可視化されて分かりやすいメリットがある。節電や節水は呼びかけをするも、インフルエンザやコロナ感染防止を優先すると、両立が難しい。 【今後の課題】 移動教室の際の教室の消灯や使用していない階段・廊下などの消灯を生徒各自が意識できるようにしたい。 【次年度への引継ぎ事項】 生徒会を中心に全校生徒の意識を高める活動をする。
		2	流しにステッカーを貼り、節水について呼びかける。	生徒会担当教諭 生徒会	全学年		
		3	各教室に古紙ボックスを置き、使用済みのプリント等をサイズ別に回収する。	生徒会担当教諭 生徒会	全学年		
廃棄物削減の取組	リサイクル活動を推進し、捨てるごみを削減します。	1	紙の使用量を抑えるため、印刷ミスや使用済みの紙を所定の場所に集め再利用する。	総括事務主査	職員	・ 裏紙の活用がすすみ、リサイクルが当たり前になっている。印刷室、職員室、事務室などに裏が使用できる使用済みの紙をサイズごとに置けるトレイやボックスを用意している。 ・ 厚生委員会によるエコキャップ回収、古紙ボックスの設置、インクカートリッジ回収を積極的に呼びかけ、毎月実施することができた。 ・ 保護者への伝達方法を紙と ICT を併用しているが、今年は、ICT を使用することが多くなった。 ・ 「赤羽根マーケット」の開催は昨年に引き続き、資源ごみの減少に大きく貢献している。	【取組の評価】□達成できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成した □達成できなかった 【理由】 紙、ペットボトル、インクカートリッジなどの回収を行うことができています。裏紙の使用がより定着してきた。ペーパーレス化は昨年より進んでいる。 【今後の課題】 伝達方法として、紙と ICT のバランス。 【次年度への引継ぎ事項】 学校情報伝達方法についての検討。
		2	卒業等で不要になる基準服、ジャージを活用するため、リサイクルバザーの実施。	保護者会 教頭	保護者会		
		3	生徒会でペットボトルキャップ・使用済みインクカートリッジの回収を行う。	生徒会	全学年 生徒		
		4	学校から保護者への伝達方法に ICT の活用も取り入れる。	全職員	教職員		
		5	不要になったものを持ち寄る「赤羽根マーケット」を継続する。	全職員	教職員		

（様式1）学校エコ活動シート

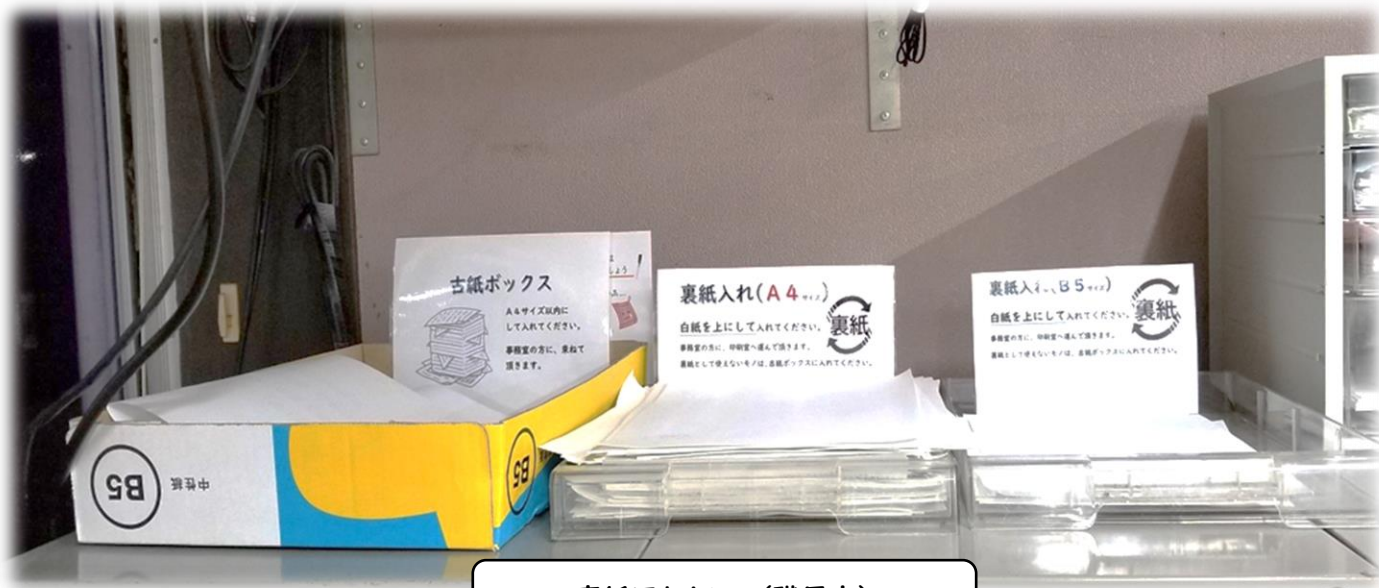
- 写真等の記録：活動や発表の風景等取組の記録を、必要に応じて添付してください。写真等の下に、キャプションをご記入ください。個人情報の取り扱いにご注意ください。



年中無休の赤羽根フリーマーケット



ペットボトルキャップの回収ボックス
（各クラス廊下）



裏紙回収トレー（職員室）

- 学校長（推進責任者）によるコメント

【学校長名】

高橋 励

【今後の方向性について】

多用な取組の継続性と脱形骸化が課題として考えられる。

教科内容につながる学習では、子ども一人ひとりの学びの場面としての活動（授業）が、毎年違和感なく実施されるが、日常の中の委員会活動等などの取組は、実施してきている活動自体が、次第に「目的的」とらえられ形骸化してきているように感じている。（昨年度の報告と比較するなかで感じたこと）エコロジーに目を向けてそれを保全する活動を習慣化させようとするれば、意識しなくとも取り組めることがねらいの一つになるが、意識から離れた行動は惰性により行われはするが次の思考を生み出さなくなる。

子どもに習慣として身に付いた活動や行動の意味を、どのように振り返らせることでよりよい環境保全のための取組みの継続性が脱形骸化につながるか、研究していきたい。

